

平成30年度 第1回松本市博物館協議会 会議概要

- 1 日時 平成30年6月5日 午前10時～正午まで
- 2 会場 松本市立博物館 2階 講堂
- 3 委員出席者 笹本委員、西森委員、横澤委員、村上委員、横山委員、宮田委員、太田委員、寺澤委員、金岩委員（欠席 高須委員）
- 4 事務局出席者 木下博物館長、中原基幹博物館建設担当課長、船坂課長補佐、土屋庶務係長、山村事業担当係長、栗原重要文化財旧開智学校校舎館長、田中松本民芸館長、横山考古博物館長、勝野窪田空穂記念館館長、窪田重要文化財馬場家住宅館長、岩岡山と自然博物館館長、鳥山はかり資料館職員

5 会議の概要

- (1) 開会 (司会者)
- (2) 博物館協議会会長あいさつ (笹本会長)
- (3) 博物館長あいさつ (木下館長)
- (4) 事務局職員自己紹介
- (5) 議事

ア 平成29年度報告について

(委員) 馬場家住宅の観覧者数が減少している原因として、2017年3月の名古屋大学馬場家研究センターの解散の影響はあるのか。

(事務局) 影響はない。観覧料収入の減少については、平成28年度は昔なつかしい写真を展示し、入館者が多かった。しかし、平成29年度は入館者の多い展示会がなかった。

(会長) それぞれの分館ががんばっているが横の連携が見られない。宣伝の仕方に工夫を加えること。

(委員) 観覧者の少ない冬場は企画展も少ない。アイデアを出し、冬場に人が来てもらえる工夫をして欲しい。

(委員) 松本城・博物館を見て町の中をみる企画を工夫してほしい。

(委員) 教職員向けの広報の仕方を工夫し、関心のある子どもにも博物館の内容が伝えられるようにしてほしい。

(会長) 学校の先生が知って、子どもを誘導できるかどうかというのは大きい。また、博物館の企画展の工夫で、子どもに特化した展示をおこなってほしい。

(委員) 110周年共通観覧券のような取り組みを今年も継続してほしい。

(会長) 横の連携は、分館だけでなく、図書館との連携をおこなう必要がある。

(委員) 本館のロビーがいつ来ても半分位あいている。他の分館の紹介等もおこなえば良い。

旧開智学校の教育勅語展でのロビー利用は狭く、期間も3回に分かれていたの一貫性がなかったと感じる。

(委員) 会議資料の数字より中身を知りたい。参加者の多いところ、少ないところ、分析して頂く等中身の工夫もしてほしい。

- (会 長) 博物館は入館者数を増やすためにあるのか、一体目的はどこにあるのかこの資料では見えてこない。「私たちはこのために活動しています。そのための成果はあったか、なかったか。」それが重要だ。私たち博物館はいつまでたっても「いくら儲かりました。いくら来ましたでは意味がない。」
- (委 員) 本館の外国人がどの位入ったか数字で分かれば良い。できるだけインバウンドの外国人が入る工夫を持ってほしい。
- (委 員) 利用者の年齢層を調査し、今興味を持っていることをつかんでほしい。
- (委 員) 学芸員になりたい子を育てる工夫をおこなってください。
- (委 員) 職業体験をたくさん受け入れてほしい。
- (委 員) 今やっている博物館事業を、やる前、やっている最中も知らせることが大切。
- (会 長) 学芸員志望の子どもたちに、希望と現実がどういうふうマッチングしていくか将来検討する必要あり。

イ 基幹博物館整備事業について

- (委 員) 基幹博物館の子ども向け展示室が2階に移動になったのが残念。
- (事務局) 今の意見は市議会からも頂いているので、内部で検討しています。

ウ その他全体を通じて

- (会 長) 社会の流れのなかで、子どもの部分は非常に大切です。
- (委 員) もっと深く掘って知りたい人たちの要求にこたえる講座を開催してほしい。
- (会 長) 学芸員は話をすること、説明することが商売なので、できるだけうまく学芸員さんが動けるようにしてほしい。
- (委 員) 博物館利用者の滞留時間を延ばすことが課題になると思われる。
- (会 長) 滞留時間は、展示の問題。課題解消に取り組んでいただきたい。